

開催期間:

2012.10.19～2012.10.21

一回目の送付の際は文字は黒で 2 回目以降は修正部分を赤字にしてください

スタッフ:

15members

簡潔な短い文章にして下さい。やっつけ仕事禁止

支援者:

JCI Manila
IWASE COSFA CO., LTD
Tokyo News Service, Ltd.
Golden Playfers Club

簡潔な短い文章にして下さい。やっつけ仕事禁止

予算:

3,511 US dollar

簡潔な短い文章にして下さい。やっつけ仕事禁止

利益／損失:

None

簡潔な短い文章にして下さい。やっつけ仕事禁止

誰の為に？

アジアのスラムに住み暮らす子供たち約 3 億人(推定)。

主語を忘れないように「我々 JCIOOは、」「我々委員会は、」です。

目的:

我々JCI 東京は、次世代にスポーツを通じて

- ①ビジョンを持って行動する子どもを育成する。
- ②国境を越えた相互理解・相互扶助の心を育成する。
- ③恒久的世界平和に貢献することを目的とする。

(背景として)貧困層に生まれてしまうと、夢も持てず、教育も受けられないことが常態化している。

貧困層の子供たちに、ビジョンを持ち、率先して行動することの重要性を理解させ、行動を起こさせる。

- ・子供たちに PositiveChange を起こし、彼らがビジョンを持ち行動することの重要性を理解させる。
- ・子供たちが生活する環境や状況に制限されることなく、世界を担うリーダーへと成長する。
- ・リーダーへと成長した子供たちが「恒久的な世界平和を達成するための行動」を起こす。

3 行程度 400 字以内

(背景)

スラムに暮らす多くの子供たちは、学校にも通うことができない。
明日のビジョンもなく、危険で搾取的な労働を強いられている。
子供たちが本来持っている自らの権利を実現し、
彼らの能力を開発するには、彼らが必要とする機会を与えなければならない。
(彼らにも Best work of life を見つけさせる為)
子ども達がビジョンを持ち、進んで行動し、率先して行動できる人間に
成長する機会の提供プログラム実施した。

我々JCI 東京は、フィリピン・スモーキーマウンテンエリアにおいて、JCI マニラと協働で以下の事を行った。

日本プロ野球名球会より超一流の元プロ野球選手を講師として、現地に住み暮らす子供たちを対象として野球教室を開催。(彼ら元プロ野球選手にも、
Survive to humanity is Best work of life を理解する機会を提供した。)

世界でもトップレベルの指導を子供たちに体験してもらった。

子供たちがビジョンを持ち、将来の可能性に気づき行動する。

彼らのポジティブチェンジを起こすきっかけを提供する。

国境を越えた相互理解・相互扶助の心を育成し、

同時に自らの夢を実現するために困難を克服する意思を育成する。
最終的には、この協働事業を通して、地域のリーダーとして子供たちは成長する。
彼らが、自発的に「恒久的な世界平和を達成するための行動」を起こしていくことを目的とする。

最初に目的、後半に背景説明を簡単に書いて下さい。

簡潔な短い文章にして下さい。やっつけ仕事禁止

概要:

JCI 東京と JCI マニラのメンバーは以下の事業を開催した。

- ①この事業を通じて、それぞれのメンバー及び両国の市民のポジティブチェンジを促した。
- ②この事業を通じて国際交流をすることにより、市民と地域に異なる文化、異なる価値観を理解するだけでなく、行動する機会を提供する。
- ③アジアのスラムに対する市民の関心を高めることにより、両国の市民の主体的な参加を促す。
- ④両国の青少年がこの事業を通じて異なる文化・価値観を知り、彼らがビジョンを持ち行動するリーダーになるチャンスを創った。

対象者は以下のデータにより算出しています。

アジアの 18 歳未満の人口・・・1,151,806 千人

アジアの国際貧困ライン(1 日 1.25 米ドル未満で暮らす人の比率)・・・27%

参考:unicef 世界子供白書 2012

全部で 400 字以上

事前

- ①JCI 東京はこのプロジェクトを実現するための組織作りを行った。
- ②JCI 東京は、この事業の HP を立ち上げ、その事業に賛同する市民や企業より物資(少年野球の道具)や資金を集めた。※Facebook <http://www.facebook.com/SMP.manila?ref=hl>
- ③JCI 東京は、事業開始までに 3 回にわたりマニラのスラムを訪れた。
JCI マニラと共に事前調査・実行計画立案を行った。

事業

- ①JCI 東京と JCI マニラのメンバー及び日本からの市民 47 名はスモーキーマウンテンを訪れ現状の生活理解した。
- ②JCI 東京は日本全国の賛同者(約 3,000 名)より 330 品もの少年野球道具を地域の子供たちへ贈呈した。
- ③元プロ野球選手による野球教室を開催し、参加する市民に Best work of life を発見させた。
- ④JCI 東京は参加した市民より事業の前後にアンケートを行った。
- ⑤この事業に賛同する両国の市民 390 名と JCI 東京及び JCI マニラのメンバー47 名は、2 日間に渡る立案した事業を遂行した。

事業後

- ①JCI 東京、JCI マニラ、両国の市民でアンケート結果をもとに意見交換を行った。

JCI 東京と JCI マニラのメンバーは以下のように協働した。

- ・3 回にわたり、マニラにて国際スタッフ会議をマニラにて実施した
- ・電話、メール、facebook などの連絡ツールを活用し、事業計画実行のために親密に連絡を取り合った
- ・事業開催期間中(2012 年 10 月 19 日～2012 年 10 月 22 日)に円滑な運営を行うためのスタッフ会議を毎日行った。

JCI 東京と JCI マニラが行った具体的な活動は以下である

【JCI 東京】

- ・日本全国から支援者を募集し、支援物資(少年野球道具)を集め、マニラへ船便で運搬
(日本全国の支援者から個人 12 名+企業 4 社より 330 アイテム 130kg が集まった)
- ・日本プロ野球名球会と協力し、講師(元プロ野球選手)を 2 名+職員 1 名を無償で派遣してもらうことに成功した
日本プロ野球名球会(Golden Players Club)・・・現役・OB を問わず、プロ野球界でトップクラスの実績を誇る選手が所属する団体で、「社会の恵まれない人達への還元と野球界の底辺拡大に寄与する」ことを理念としている※バッターは 2000 本安打以上、投手は 200 勝以上など規定の条件をクリアした者のみが所属することが許される
- ・日本全国のメディアへ告知、取材のマネジメント。他広報活動
- ・現地での野球教室のサポート

【マニラ JC】

- ・JCI 東京及び講師の移動手段の確保;バスの手配、現地警察の警備配置
- ・JCI 東京メンバーにスモーキーマウンテンへの現地視察ツアーのアテンド及び手配
- ・フィリピンにて参加市民及び支援団体の募集
- ・東京 JC からの野球道具の受け入れ、関税局手続き
- ・Paradise Heights での支援物資贈呈のレセプションパーティー設営
- ・参加者全員への昼食の手配
- ・現地での野球教室のサポート

主語を忘れないこと、単語は 7 つ以下で 1 文とすること

結果をキチンと確認しないとココは書けません。
解らない場合はすぐに関係者、参加者にアンケートをとり
関係者からのプラスとマイナスの評価を入手して下さい。

結果:

我々JCI 東京は、JCI マニラと協働し、スモーキーマウンテン及びマニラ近郊に住み暮らす子供たちに対して SMBP 事業を行った。
その結果、私たちは下記の内容の成果を明確に得た。

①子ども達が将来の夢を実現するためにビジョンを持って行動することを開始した。(Positive Change を起こすことに合致)

※アンケート結果 1-a,1-b,1-d,2-b,3-a,3-b

②参加者全員が国境を越えた相互理解・相互扶助を理解し行動した。(相互理解・相互扶助に合致)

※アンケート結果 1-c,2-a,2-b,2-c,2-d,3-a,3-b,3-c

③参加者全員が恒久的世界平和に貢献する行動を継続するきっかけを作った。(Survive to humanity is Best work of life に合致)

※アンケート結果 1-d,2-a,2-b,3-a,3-b,3-c

JCI 東京は上記の結果を分析するために事業後に参加者に対し下記のアンケートを行った。

1. 参加前と参加後で下記項目に対してアンケートを実施した。

a.野球の指導者から学んだスポーツマンシップは今後の人生に役立つと思う (81%)

b.将来の夢を実現するために今回の経験が役に立つと思う (69%)

c.事業での交流を通じて国の違いを超えてお互いに理解し合えた (87%)

d.将来 JCI で活動してみたい (42%)

2. 上記についてどのような変化があったのかヒアリングした。

a.世界の人びととの友好関係こそが世界平和の基盤になると感じた

b.他国の人の考え方に触れることができその考えを多くの人と共有し、さらに発展させたいと思うようになった

c.チームワークの大切さを学んだ

d.今ある環境は、様々な人が助けてくれていることを感じ感謝した。(親や野球の施設、道具など)

3. その変化は、今後、あなたの行動にどのように影響するかをヒアリングした。

a. 将来指導者としてスポーツに関わっていきたい

b. 世界中の人のために貢献する仕事がしたいと思った

c. 相手を理解し、尊重して行動することの大切さが解った。

以上の分析より、JCI 東京は、この事業を通じいて参加者が①～③の成果を得たことを確認した。

上記の結果の確認方法を書いて下さい

検証結果を簡潔に書いて下さい

主語を忘れないこと、単語は 7 つ以下で 1 文とすること

行動:

- 2012年2月 JCI 東京と JCI マニラによる SMBP 事業のプロジェクトチームが発足
- 2012年3月 JCI 東京は JCI 東京メンバーの参加メンバーを選定し、SMBP スタッフ会議をスタート
- 2012年4月 JCI 東京メンバーはマニラに渡航した。
マニラスモーキーマウンテンの現地調査と JCI マニラメンバーとの第 1 回国際スタッフ会議を開催した。
- 2012年5月 JCI 東京は東京にて東京スタッフ会議を実施した。
JCI 東京は Facebook 上での HP を立ち上げ、
日本全国の市民からマニラへの支援物資(少年野球道具)の募集及び受け付けを開始した
- 2012年6月 JCI 東京メンバーはマニラに渡航した。
マニラスモーキーマウンテンの現地調査と JCI マニラメンバーとの第 2 回国際スタッフ会議を開催した。
JCI 東京は東京にて東京スタッフ会議を実施した。
- 2012年7月 JCI 東京と JCI マニラは、日本国内、フィリピン国内の一般市民より参加者の募集を開始した。
JCI 東京は東京にて東京スタッフ会議を実施した。
- 2012年8月 JCI 東京は facebook を通じて、3つの企業より支援金を受け入れた。
JCI 東京は東京にて東京スタッフ会議を実施した。
- 2012年9月 JCI 東京と JCI マニラメンバーは、行動計画の準備を開始した。
- 2012年10月 JCI 東京メンバーはマニラに渡航した。
マニラスモーキーマウンテンの現地調査と JCI マニラメンバーとの第 3 回国際スタッフ会議を開催した。
JCI 東京は JCI マニラと協働してスモーキーマウンテンベースボールプロジェクトを開催した
JCI 東京は事業後活動として、JCI 東京と JCI マニラ及びマニラ市民との意見交換会を実施した

【SMBP 期間中の行動】

2012 年 10 月 19 日

15:00～17:00

オリエンテーション(JCI 東京、JCI マニラ)

19:00～22:00

ウェルカムパーティ(JCI マニラによる JCI 東京及び日本プロ野球名球会への歓迎式典)

2012 年 10 月 20 日

9:30～10:45

スモーキーマウンテン視察と住民交流(JCI マニラがアテンドし、JCI 東京及び日本プロ野球名球会メンバーが現地視察および現地に住み暮らす住民との交流を行った)

11:00～12:40

スモーキーマウンテン及びマニラ市民が主催する JCI 東京及び日本プロ野球名球会へのウェルカムパーティに参加した

JCI 東京がスモーキーマウンテンエリアに居住する少年・少女達 79 名へ支援物資(日本全国の支援者である個人 12 名+企業 4 社より届けられた少年野球道具 330 アイテム)を贈呈するセレモニーを開いた

13:00～17:30

日本の元プロ野球選手 2 名と JCI 東京がスモーキーマウンテン近隣に住む少年・少女達 69 名へ野球クリニックを開催した

2012 年 10 月 21 日

9:30～15:30

日本の元プロ野球選手 2 名と JCI 東京及び JCI マニラがマニラ市内に住む少年・少女達 221 名への野球クリニックを開催した

JCI 東京がマニラ市内に住む少年・少女達のチームへ野球ボール 100 個及びバット 10 本を贈呈した

19:00～21:00

東京 JC がマニラ JC と日本プロ野球名球会へ意見交換会を開催した

※JCI 東京と日本プロ野球名球会は野球クリニックを開始する前に、石拾いなどグラウンド整備を参加者全員で行うプログラムを取り入れた。グラウンド整備は参加者が野球をプレーすることができる環境と関係者への感謝の心と、スポーツマンシップを育成することを目的としている。

全部で 200 字以上
2000 字以内程度

考察や推奨

1. アンケートについては文字の認識が難しい子供もいるため、挙手にて行った。
より多くの意見を集めるためには、筆記形式が望ましい。
2. 私たちが今回の事業より、更に多くの人々に JCI の意義を伝えるには、現場周辺の状況を更に調査して理解する必要がある。
3. 次世代にスポーツを通じて事業の目的を達成するには、一年に一度のクリニックでは足りない。
現地の子供たちの家族や野球のコーチを協力者及びトレーニーとして育成していくことも重要だと感じた。
4. 私たちは今回、野球を通じて事業の目的を達成する為に活動したがサッカーやバスケットボールなどより身近なスポーツを活用して更に目的達成の為、次の行動を起こしたい。
5. 私たちはマニラ、スモーキーマウンテンエリアを対象として事業を行ったが、今回の成功事例をモデルケースとして、他国の LOM と協働してアジア全域へ運動を拡げていきたい。

【上手くいった部分】

- ①ソーシャルネットワークを活用することで多くの支援者(3,000 名以上)を集めることに成功した。
多くの市民が実際に現地で共に活動をした(両国間で 115 名)。
日本全国より少年野球道具の支援(330 個、130kg)を得ることができた。
- ②日本プロ野球名球界の協力を得ることができたことで、世界でも最高峰水準の指導が実現した。

【その要因、工夫】

- ①事業の計画立案の段階から発信活動を続けたことにより、全国の閲覧者の参加者意識が高まり多くの支援につながった。
- ②JCI 東京と JCI マニラは、笑顔溢れる心豊かな社会作りと野球文化の持続的発展を目指し、社会的弱者への支援活動を積極的に行っている日本プロ野球名球会との考え方が一致し、協働できたこと。
- ③日本プロ野球名球界との協働が実現したことで JCI 東京との事業として広く一般に認知されることとなった。

	<p>JCI 東京は 64 年前に日本で初めて設立されたロムであり、スポンサーは JCI マニラとなる。</p> <p>64 年にも渡り JCI 東京は JCI マニラと共に活動を続けてきた。</p> <p>今回の事業はその歴史の中でも最大規模の事業。</p> <p>今回の協働事業の成功の要因は、私たちの長年に渡る信頼関係の積み重ねである。</p> <p>改めてパートナーとなった JCI マニラに敬意と感謝を表したい。</p> <p>私たち JCI メンバーの大きな利点の一つは、世界各国に協働事業ができるパートナーが存在することである。恒久的な世界平和への目標達成の為、今回の 2 国間共同事業の運動を世界中の仲間と共に拡げていきたい。</p>
<p>全部で200字以上</p>	
	<p>全国的なスポーツ新聞(99.9 万部/日)に事業の様子が掲載された(2012 年 11 月 26 日)。</p> <p>「土壌をつくるためにも1回きりではダメ。継続してやり、地域活性化につなげたい。」(駒田氏コメント)</p> <p>★ 新聞の紙面 PDF を挿入(2 種類、SMBP の Facebook 記事より) ★</p> <p>全国ネットのテレビ(テレビ東京系、視聴可能者数一億人以上)で事業の様子が 15 分にわたり紹介された(2012 年 12 月 31 日)。</p> <p>,名球会作成の公開動画 http://www.youtube.com/watch?v=Gku8qeVRhNk&sns=em</p>